

増補地錦抄

八

卷之八

851

5

木植土呂々 初丁
 見様 并 ヤシイニ丁
 植木遠国持様 ム丁
 同植替時分 七丁
 植作様イ口分 九丁



国立国会図書館 請求記号 851-5
 タイトル 『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用

坊補地錦抄卷之八

△江府三玉

くろあまのさくら 武陽の若公といひあつて
藤原極保子集巻一と肥良の
ゆゑまをともめ代のちるん合所用

葛西真土

かゆのど志あつて平隅田川
えんが真土あてあつて
ふまじつとくつるん砂真土
あつて流るる

武野野云

しづののつら
栗野村をより板橋深井
むしあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて

吉田侍郎氏 寄贈本

ガラス使用

国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

八王子の砂

○ 国志をききあしるるあり新日誌
 王子の物大方知るる砂あり
 他に白ちるるをよとよひるる赤
 ちあちるるをよとよひるる白
 ぬすのてし用

右三々の土おちよ合つる砂の葉を極む
 おちりて葉の中よのりか乾かすもまじ
 なす牡丹とつた牡丹の土より葉葉の砂と真
 土おちりて葉の中よのりか乾かすもまじ

蘆花の砂をとり真土かへる方もある
 たりし海神土をぜりし砂真土おちた
 ちればかへるぜりし土を乾かすもまじ
 土は之を土集令と同く乾かすもまじ
 雨にわたるぬれよたつて乾かすもまじ

△ 大抵の土は葉を乾かす事

土は冷熱虚実の葉をよ補保温涼の
 葉を陰陽の性よのり葉の葉後の
 痛と作如書せりむ利よ月よのり合

ろの補

三

梅作りも入るへ一丸よきなり

冷 ひやみ 日陰の地

補 りき 干鰯油粕

熱 あつ 日向の地

溲 うり 魚洗汁水糞

虚 そよ 赤砂焼土

温 ぬる 合煮の苦菜灰

實 じつ 石砂真土

涼 すず 泔水

△南小並木生垣の縁屏のたぐのきさきさき

わが新小陰とて必冷氣の地なり二三もこ
置も湿氣のたつたなりげわの合煮苦菜多
入てし魚の洗汁をたぐりてさきさき
性のびき花つとつたなり合煮の後
りやけくともその利なり人あつて縁屏
せりあつて地あつてのなるも苦菜のたぐの
せりあつてからたぐりてさきさきさき
のなるもさきさきさきさき

△南小並木生垣の縁屏のたぐのきさきさき

其の利ありといふ如何 春をたゞすも線其
 畑も春を代わじしる地をて虚太も有あり
 事あり極物も又そのどら年をわらうらぶま
 流るのやせしるのどら 花壇の相と
 わらうてちのれぬふいさるる方ありや
 ありひいふらぐらう 但多あり 葉花植
 たる花壇のやうしと流よりあをひらるどら
 ありともう 農事なをいふはつら地やこの葉
 身ひいふ年や七年とまうさるのわらうたなす極物
 する秋葉の七地とくちと入しうてうらまはるはる葉のよ

かんひせんわうしけうとら春を植るる
 ふらうてくまう

△葉の陰陽の性との性質のなぐいすてま
 葉ふらうするすの陽性なる陽気とのて植葉
 とのひやれをのた葉とひいさるの極ひまら
 たぐのなる秋つけて花咲るの陰性なるひや
 かしらひし秋のるのるすいさるて夜氣
 とのる葉やたも葉とてわらうてはるはる
 すまらうのるひなる 但春を花咲るのと陽性
 わらうてはるの葉花たよそのの極ひまら
 とこのてあげらうのるひらるの陰性なるひや

多補

八五

一 草木 後裔 毎月の節 十日より ぐくぐく ずり 曆を 記し
つる 日あり 耕作ニ 農者 せん せん せん せん せん せん せん せん
橋本 橋本 せん せん せん せん せん せん せん せん

○但之 亥ニ 入ル 刻ノ 節ニ 余ハ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ
月 ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ

一 け 平 せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん
ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ ころ

草木 植 せん せん せん せん せん せん せん せん

忍 せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん
せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん

せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん
せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん

真 せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん
せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん

野 せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん
せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん

せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん
せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん

分を田てう

一寸行る花ハ冬中より二月中旬迄肥を用が
葉おて肥用はバクうてしてはむ若用方ハ合肥と
用がーうけ肥ハ必とらう

草木植化行は合

⑤

摘栢 植以二三月内から又八九
月頃の間に

山栢 植以二三月

いさ 植以二八月空月内から

いさ 植以二八月摘木三二月

いさ 植以二八月空月内から

岩蓮花 植以二八月空月内から

いさ 植以二八月空月内から

いさ 植以二八月空月内から

⑥

白くもえ 植以二八月空月内から

花下子 植以二八月空月内から

いさ

いさ

白丁紀 極分何討成たりしに
本も日の合肥が用

淡水紀 極分去秋砂に極分
はあゆみたるもの砂乃
中ニせらるる極分あり冬ハ
おこしとてはしめし

あゆり 極分三月合肥
あゆり 極分三月合肥

あゆり 極分三月合肥
あゆり 極分三月合肥

あゆり 極分三月合肥
あゆり 極分三月合肥

あゆり 極分三月合肥
あゆり 極分三月合肥

あゆり 極分三月合肥
あゆり 極分三月合肥

あゆり 極分三月合肥
あゆり 極分三月合肥

あゆり 極分三月合肥
あゆり 極分三月合肥

あゆり 極分三月合肥
あゆり 極分三月合肥

あゆり 極分三月合肥
あゆり 極分三月合肥

あゆり 極分三月合肥
あゆり 極分三月合肥

に

あゆり 極分三月合肥
あゆり 極分三月合肥

あゆり 極分三月合肥
あゆり 極分三月合肥

あゆり 極分三月合肥
あゆり 極分三月合肥

あゆり 極分三月合肥
あゆり 極分三月合肥

あゆり 極分三月合肥
あゆり 極分三月合肥

牡丹

牡丹八月末の分を定むるは牡丹乃まきり根に根うをとりて
 比より又大寸さるくあてむとまきり根に根うをとりて
 まきり根に根うをとりて根に根うをとりて根に根うをとりて
 まきり根に根うをとりて根に根うをとりて根に根うをとりて
 合肥と用ひ又まきり根に根うをとりて根に根うをとりて
 の糞と焼て土中まきり根に根うをとりて根に根うをとりて
 根に根うをとりて根に根うをとりて根に根うをとりて
 糞又小使の根に根うをとりて根に根うをとりて根に根うをとりて
 根に根うをとりて根に根うをとりて根に根うをとりて
 根に根うをとりて根に根うをとりて根に根うをとりて
 一月初めを根に根うをとりて根に根うをとりて根に根うをとりて

牡丹八月末の分を定むるは牡丹乃まきり根に根うをとりて
 比より又大寸さるくあてむとまきり根に根うをとりて
 まきり根に根うをとりて根に根うをとりて根に根うをとりて
 まきり根に根うをとりて根に根うをとりて根に根うをとりて
 合肥と用ひ又まきり根に根うをとりて根に根うをとりて
 の糞と焼て土中まきり根に根うをとりて根に根うをとりて
 根に根うをとりて根に根うをとりて根に根うをとりて
 糞又小使の根に根うをとりて根に根うをとりて根に根うをとりて
 根に根うをとりて根に根うをとりて根に根うをとりて
 根に根うをとりて根に根うをとりて根に根うをとりて
 一月初めを根に根うをとりて根に根うをとりて根に根うをとりて

多とためて使む者には使ぐ—のよとれをさう
たがる物あり此のこまめとまのま—田舎のす—
まぐ—物だんま—ま—ま—ま—ま—
や—ま—ま—ま—ま—ま—ま—
内—ま—ま—ま—ま—ま—ま—
たの探—ま—ま—ま—ま—ま—ま—

唐桐の中持物ありま—ま—ま—ま—
ま—ま—ま—ま—ま—ま—
ま—ま—ま—ま—ま—ま—
ま—ま—ま—ま—ま—ま—
ま—ま—ま—ま—ま—ま—
ま—ま—ま—ま—ま—ま—
ま—ま—ま—ま—ま—ま—
ま—ま—ま—ま—ま—ま—

つらま—ま—ま—ま—ま—ま—
つらま—ま—ま—ま—ま—ま—
つらま—ま—ま—ま—ま—ま—
つらま—ま—ま—ま—ま—ま—
つらま—ま—ま—ま—ま—ま—
つらま—ま—ま—ま—ま—ま—
つらま—ま—ま—ま—ま—ま—
つらま—ま—ま—ま—ま—ま—

①
況丁れ—ま—ま—ま—
況丁れ—ま—ま—ま—
況丁れ—ま—ま—ま—

①

三月の辰のよき田
おもだうなうとよむ肥
こまらと里の中へうぐ
肥奥のぼけけ
種分二月より六月

かりと 種分何れかたう
●大坂けいたう 六月初方たのど
うう合肥用

大坂ひのよき ありとせんあけ 小車 ありとせ

ありとせ ありとせ ありとせ ありとせ

ありとせ ありとせ ありとせ ありとせ

右に種分二月申末まで合肥用とせ
まあわてらう

わ

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

か

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

種分八月より一月まで

かいたる 極冬二月知方より
真冬にせむるなり

何れも真冬なり 極冬にせむるなり
よき極冬なり 極冬二月

かいたるし 二月半旬の極冬極冬にして終つてはねの極冬なり
六月の極冬なりとせむるなり 極冬にせむるなり 終つてはねの極冬なり
かいたるなり 極冬にせむるなり 終つてはねの極冬なり

かいたるなり 極冬にせむるなり 終つてはねの極冬なり
かいたるなり 極冬にせむるなり 終つてはねの極冬なり
かいたるなり 極冬にせむるなり 終つてはねの極冬なり
かいたるなり 極冬にせむるなり 終つてはねの極冬なり

かいたるなり 極冬にせむるなり 終つてはねの極冬なり
かいたるなり 極冬にせむるなり 終つてはねの極冬なり
かいたるなり 極冬にせむるなり 終つてはねの極冬なり

かいたるなり 極冬にせむるなり 終つてはねの極冬なり
かいたるなり 極冬にせむるなり 終つてはねの極冬なり
かいたるなり 極冬にせむるなり 終つてはねの極冬なり

かいたるなり 極冬にせむるなり 終つてはねの極冬なり
かいたるなり 極冬にせむるなり 終つてはねの極冬なり
かいたるなり 極冬にせむるなり 終つてはねの極冬なり
かいたるなり 極冬にせむるなり 終つてはねの極冬なり

小刀でほとけけつてう
 えて九月末旬に植てありかし
 二三日ありて冬平旦のわらう
 て鬮うあつてあつて完とあり
 の植て入はてうくうあつてわ
 かもを氣をこらうる

玉液きき
 植る何月かたう
 ころ一本の二日月

竹のうし
 植る何月かたう
 玉液ききころりあつて
 竹のほれはけり子の付たを
 ひらてはけは付

たひくま ぼうやう たりん

右柱命二月申合肥砂土かまをうらうらうらう肥れつて
 可也

れ

右柱命八月月うらうらう八月月うらう肥れつて
 可也

三月に種とまうと垣にうらうらう肥れつて
 中へ合肥と入はてうらうらう二日月うらう肥れつて
 可也

ろ

蕪鉄 植る何月かたう
 多く蟻付テ少拵し物あり人の曰く蕪鉄のうらうらう肥
 釘を打てうらうらう肥れつて毒ありや
 蕪鉄ハ鉄砂の多き地とゆへ葉としりねあやゆき
 あり釘ハ火に焼てうらうらう肥れつて
 たりさそまハ徳とくをせしむるどのでく
 へうらうらう一冬あつて切てをうらうらう年の葉ありかん
 又をうらうらう一冬あつて切てをうらうらう年の葉ありかん
 又をうらうらう一冬あつて切てをうらうらう年の葉ありかん

去余をさうしてははれとぞ詳

そらうご 極多に六月

龍尾系 湿度又八田とく
肥用し極多を秋

①

椿 極多に月中旬末とく入接木扱おも六月よりびつとく
常あり扱扱ハ根をそく切り去りてはぐあはれ根を
切り取りにさうごつひてはぐあはれ一皮やとまをへしとく
うしはれとれはれをそく切り根同とびつくりす葉三とく
のむやの房とまをそつてつて切り切てそまうはれとてハ切
らるるあまていすそとてはれとてはれつらつこの如くあまは
斗りりあまの湯づきとくあてよまやとくまはれとて
竹のたうをそくまてつてはれハ根とくくくく切て
まてつてつてはれのつとハ根れあまう山をとりひて根乃

あつとをそく上とて扱木ハ四尺と二つとくつてさうごだまう
とくあつと根を冷めと二何れしひとて

躑躅 長生花材扱と去毒
の系紙に極ゆりやう

さうごのあまはれとて

はげ 極多を秋とく
之四月やとくあまひん
つてつて

はれとれ 白 是つとくあま

右ハ極分二八月中とく合肥用とてゆく菓のあつはけ根と
へまて

②

③

てしけらるるまうし 晴らある日ハ花うらうら 梅子とるぞとて
日よあつたうすいでまふ子細あつたあり正月の末
二月よ成余を去りて 暖氣ハ南風吹けぞとて
まよふまうし 梅をうらぬける 梅あり南風吹けぞとて
御うらむ 深きまふまふとて 二月の初めを
ありやとて 梅のまふまふとて 二月の初めを
つらまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを

(じ)

梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを

ひげ 梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを

梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを

梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを

梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを
梅のまふまふのまふまふとて 二月の初めを

切てさひこ末三月ハ多と
おとむ湿比よさす

⑤

つがまの 極分三月廿五日

⑥ 八いよわり

⑦

のふん 極分三月廿五日
ふんこまのいのり
のこまのいのり
あつちまに合配極分二月

あつちま 極分三月中旬
合配

あつちま

⑧ ハをよわり

⑨

楠 極分三月廿五日

あつちま 極分三月廿五日

あつちま 極分三月廿五日

右極分三月廿五日
あつちま
極分三月廿五日
極分三月廿五日

あつちま 極分三月廿五日
あつちま 極分三月廿五日

あつちま 極分三月廿五日

あつちま 極分三月廿五日

あつちま 極分三月廿五日

あつちま 極分三月廿五日

あつちま 極分三月廿五日

あつちま 極分三月廿五日

くもさうり くさくさうり

右のも枝分二八月月中旬合肥に中をまきまきて用二月のひ

くもさうり 二月のひたひた

九種系 合肥に中を真ん中

や

柳のひたひたさうり

あそひつるさ

やぶやそん 枝分二四月中

まきまき

やぶやそん 二月月中旬合肥

まきまき

やぶやそん 枝分二八月中旬

まきまき

やうらく系 やくも練

あつらひ

あつらひ

右の枝分二八月月中旬合肥に中をまきまきて用二月のひ

や

松の多し 枝分二八月中旬合肥に中をまきまきて用二月のひ

まきまき

右の枝分二八月月中旬合肥に中をまきまきて用二月のひ

まきまき

右の枝分二八月中旬合肥に中をまきまきて用二月のひ

まきまき

まきまき

け

けいん 桂を定月

けいん 桂分八月下旬合肥
母をよそせり

ふ

ふくろ 桂れ八月下旬に
みんあるあを

又ふく合肥とん桂よ馬
のふくふくふくふくふく
くふくふくふくふくふく
おんあおのあふくふくふく
ふくふく

げんげ 桂を二月初方合肥
母しり

あふ 桂の肉桂めり十月の
はりりてち桂定月

又ハ冬取あふへ桂を
ふくふくふくふくふく
合肥とん桂れふくふく
ふくふく切て桂ふくふく
八月の桂ふく

風ん 桂と竹のはりふくふく
はりふくふくふくふく

ふくふく 風と竹は葉を
内ふくふくふくふく

あふ 桂分九月下旬合肥
冬特 桂分九月下旬合肥

八月半の馬ふくと桂ふく
ふくふくふくふくふく
月のふくふくふくふく
ふくふくふくふくふく

ふく 桂れ九月下旬合肥
あふ 桂れ九月下旬合肥

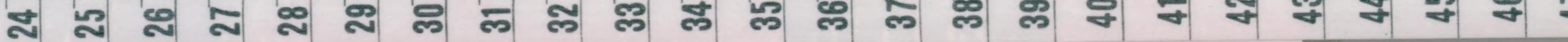
ふく 風ん

右桂分二月下旬合肥は
あふふくふくふくふく
ふく

あふ 桂を九月二月下旬
あふ 桂を九月二月下旬

酒のふく桂とふくふく
あふふくふくふくふく
あふふくふくふくふく
あふふくふくふくふく

あふ 桂れ九月下旬合肥
あふ 桂れ九月下旬合肥



シナ

①

こゆ 極ち八月

こゆ 極ち八月 二日月

こせう 極ち三日月

かろ 極ち二月中旬 極ち

こまろ 極ち八月 極ち

②

こ野 極ち八月

五 極ち八月

こ蓮花 極ち八月 田 水

こ 極ち八月 極ち

け 極ち八月 極ち

こ 極ち八月 極ち

こ 極ち八月 極ち

③

こ 極ち八月 極ち

こ

こ 極ち八月 極ち

④

こ 極ち八月

こ 極ち八月 極ち

こ 極ち八月 極ち

シナ

あせが 種分二月

あぢきい あまあや

種分二月 種分六月 種分八月 種分十月 種分十二月

あせがたう 二月末に種分

三年に一回種分をきく

あせがの 二月種分をきく

合分より種分をあきぬ

はて二三月より種分をきく

わびび 種分二月竹本等

わびび 種分二月竹本等

わびび 種分二月竹本等

わびび 種分二月竹本等

わびび 種分二月竹本等

わびび 種分二月竹本等

わびび 種分二月竹本等

わびび 種分二月竹本等

あひ 七月に種分をきく二月の合分肥を種分へて肥

(2)

柳 種分二月月より種分

柳 種分九月十月十一月まで

あせがたう 二月末に種分

ざくろ 種分六月

えせう 種分八月月より種分

種分 種分 種分 種分

あせが 種分二月竹本等

あせが 種分二月竹本等

八七



沃車 糞草 土まじり

右八田公に合肥をせつひこまけりぬんて極ぐ一尾お恩
とて極ぐまじりしあぢくこんあさるまじり極
くまじりあさるあさるて温あまじり

三七 極あし さんしこ

右八田公に合肥極分二八月

極草

極分八月極七二恩公おまじりてさし肥又魚洗汁
自家冬分二月初まじりて用い

(三)

まじりて極あし極あし

まじりて極あし八月月

まじりてさし極分二月事の以極をりて合肥極一尾
まじりてさし極分二月事の以極をりて合肥極一尾
まじりてさし極分二月事の以極をりて合肥極一尾
まじりてさし極分二月事の以極をりて合肥極一尾

まじりてさし極分二月事の以極をりて合肥極一尾
まじりてさし極分二月事の以極をりて合肥極一尾
まじりてさし極分二月事の以極をりて合肥極一尾
まじりてさし極分二月事の以極をりて合肥極一尾

まじりてさし極分二月事の以極をりて合肥極一尾
まじりてさし極分二月事の以極をりて合肥極一尾
まじりてさし極分二月事の以極をりて合肥極一尾
まじりてさし極分二月事の以極をりて合肥極一尾

まじりてさし極分二月事の以極をりて合肥極一尾
まじりてさし極分二月事の以極をりて合肥極一尾
まじりてさし極分二月事の以極をりて合肥極一尾
まじりてさし極分二月事の以極をりて合肥極一尾

八月月中旬に種を
まき二月中の
以合肥と用ひ種分べし
又毎月種をまきりば年
死にせず

種分二月の中
に合肥をまき種分
日びげに種分べし

種分
種分
種分

種分八月の中合肥用ひて年中に種分べし

是も種分と云ふは
中々一肥に及ばずして
一肥の時に分けて
日びげとすべし
種分の第一を種分
まきて種分べし
種分種分と云ふは
種分種分と云ふは
種分種分と云ふは
種分種分と云ふは

種分八月の中合肥
種分八月の中合肥
種分八月の中合肥
種分八月の中合肥
種分八月の中合肥

①
②

種分八月の中合肥
種分八月の中合肥
種分八月の中合肥
種分八月の中合肥
種分八月の中合肥

びんかん ひびろ じん

右の枝分二月八日月も可也一さつ二日月

びん柳 枝分二月八日月
いんふ木 枝分二月

ひんぎ いらぎ 枝分二月

ひんぎが ひんぎ ひんぎ ひんぎ

右の枝分二月月中旬合肥より一時的に肥奥はけ

ひんぎ 八月月中旬を移す
日向葵 二月中旬を移す

よらんす時合肥用
ひんぎ 枝分二月末合肥

ひんぎ 枝分八月末を枯
木と枝分

ひんぎ 水もまわす田んぼ
さうめんをたがて

(も)

ひんぎ 枝分二月末を
桃のし 月中旬を移す梅

ひんぎ 枝分二月末を
ひんぎ 三月末を移す

ひんぎ 枝分八月末を

ひんぎ 枝分四月
三月末を移す

ひんぎ 枝分二月末を

ひんぎ 枝分六月合肥

ひんぎ 枝分四月末を

ひんぎ 枝分二月
時分

(せ)

身とらるやど根を海うてうーとて冬いふ氣に入付く
初日のさすてあかこころうー又初月乃さすあこよし
脇をき氣のわぬぬかして色ううさうーちね
かもわんハきんえううー二月のけかうりちをてきまをす
うー梅南とすんー〇うーせむせむハ折に植ん砂ちくく
ちよもせ折にあじせむせむのきあを根かなゆサケ
折の味うりあつく植ん九月やどーとてきあをさうりてんま
わうり冬ハきまをわぬぬかして〇あこせむハ
岩ねとあつめは〇て針金せまもささてせねやう
の根をわぬぬかして繩又ハきまをささてせねやう
とてあて右のきねハまた付んをきあハゆてすてうう
かまうとてうーやどてきあをわぬぬかして著うとてきあ

八卷三

ぞー岩ねにあらううううく氷をわげくまぬさうて
うーかのねこまぬぬかしてううううてううう
〇を年のほかーよらううううううく田舎な肥
と折うまを年こーとせむせむ乃根のきまをわ
いまをせむううすて右のわううくれ折うとてあへん
あへん折の事をもてて根のううぬやうーとてま
五月月ハてあううううううううううう根のう
まを年あをすかーとてううううううう根のう
しらのふの根はさううーとて根子根なれがううう
ううハて根はさううううううううううう根のう
しとて根はさううううううううううう根のう
あうううううううううううううううう根のう

水仙花 極分七八月根おし馬之んど垂るらんうーこつ
て根とさびーくうーいさるおとのどくをーの徳ハ
余多かまりて土地よりてはくうあくさ物ありき
性多中た咲果れいふは家ことこのじりく黒くハ
又か圃ていふお身なきとも房別流列の暖ぬわて
果たふどどさ花ごしてらんは花種乃ちひやうは
ふるかをあれがさるんとしてさ地より一南風の
あごうあるはわれがんでにたうく是とんハ
一意さぶめつーは土地よりそとあり氣と地く
果してんさうり四花下て名花へ上り城の町へまは
たりの房別するがうりまれのー母はさうて極分ハバ

花見のうねと出てまうらうけてわー

すまね 中巻に英訳け

極分二月廿六日

花見のうねと出てまうらうけてわー

花見のうねと出てまうらうけてわー

美人蕉 冬ハ元氣小入しき親とのそくへー葉の

くはてー

東武江小澤舟

作者 自益 伴云衛

寛政七年寅抄

中江日本為多二可目

次京新字水開板



国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用